

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 古川 建三

JR東労組

本部OB会

ニュース

No.255 2018年4月発行

不当労働行為を駆使した

JR東労組破壊攻撃を許すな!

「抵抗とヒューマニズム」の旗を守る組合員を支援しよう



奮闘する中央本部を激励した本部OB会の役員

組合脱退強要の手法

JR東日本会社による「組合脱退強要」の不当労働行為の手法が、今次々と明らかになってきています。

地方労働委員会に訴えた「不当労働行為救済申立書」によると、社員の勤

いまJR東日本の職場では、「18春闘方針」を決めた2月9日の「JR東労組第44回定期中央委員会」を境にして、会社側からの圧力を受けた組合員が、JR東労組を脱退するという動きが起きています。その動きは、支社の組合員や助役など管理者の組合員を中心にしてきており、現場の駅や工務職場にも拡大しております。またこの不当労働行為の「組合脱退強要」の動きは運転職場でも起きており、分会組織を守ろうとする組合活動を封じ込めるために、会社は急遽職場に「監視カメラ」を設置し、副区長（非組合員）を増員しています。職場の組合員は、「安心して電車の運転が出来ない」と、不安を訴えています。

務時間に個人面談をして「脱退するなら今だぞ」「脱退しないなら試験に受からないぞ」と脅かしたり、「脱退するときは自分の意思ですと云うこと」と指示しています。

また会社幹部が「職場巡回」と称して訪ずれた職場では、「(脱退は)いまだどんな感じですか」と訪ね、「組合の云っていることは全部嘘だとわかるような『社員の皆さんへ』にしているの、活用してもらえれば」と、現場長に「組合脱退者を増やすように」を督促しているのです。そして事実、その職場では直後から「脱退者」が増えました。

また運転職場では、何の前触れもなく、急に女性の副区長を増やしたり、社員の言動を監視するための監視カメラが職場内に設置されました。

会社は何を狙っているのか

組合破壊の先頭に立つ富田社長は、「社員の皆さんへ」の中で、「様々な施策について安定した労使関係の下で建設的かつ時間を意識した議論

が必須」と述べています。ここに組合破壊の狙いが見て取れます。

会社はこれからの「新たな30年」のために、4万人体制に向けた職場の効率化から、赤字の23線区や分社化構想など様々な施策を用意していると云われています。

そこでこれらの施策を時間をかけずに進めたい会社は、チェック機能を果たすJR東労組が邪魔になり、組合の「18春闘のスト戦術」を口実にして、支社や助役などの組合員を大量に脱退させ、不当労働行為をやりながら職場の組合員にも手を付けたのです。私達OBは、想起します。

かつて労働組合を破壊して合理化を進めた日本航空では、その後飛行機の墜落事故を連続して起こし、同じ様にJR西日本でも「福知山線脱線事故」を起こしており、交通運輸部門の企業の労使関係の悪化は、利用者の安全に直結する問題だという事を。

JR東労組を守ろう

本部OB会は、JR東日本会社の組織破壊攻撃を絶対に許しません。それは赤字の国鉄から組合員を守るために、「血と汗と涙」を流して、JR東日本会社を創り出してきた私達だからです。

本部OB会は3月6日に古川会長を先頭にして中央本部を、激励しました。またそれに先立ち2月26日には東西関東ブロックの6地本OB会の代表も本部を激励しました。

今後もJR東労組OB会は、奮闘する組合員を支援します。

初の緊急幹事会で 会社の組合破壊を議論!

エルダー組合員も脱退、総会は延期に

本部OB会は3月26日13時より、本部大会議室で初めての「緊急幹事会」を開催し、現在JR東労組に熾烈に掛けられている会社からの組合破壊について、集中議論を行いました。

幹事会には本部OB会の役員他、中央本部から奥山副委員長と大塚OB担当中執、それに各地本OB会選出の12名の幹事が参加しました。

座長をつとめた古川会長は、緊急に開催した幹事会の開催理由を説明した後、奥山本部副委員長から約30分間に亘って、不当労働行為の組合脱退工作の内容や、JR東労組の現状の報告がありました。

参加した幹事からは、地本の現状や地本OB会で議論した内容の報告がありました。その報告の中には、エルダー組合員(OB会員)も大量に脱退している話もあり、OB会にもその影響が及んでいる実態が明らかになりました。

主に出された意見は
・不当労働行為をはつきりさせないと、組合員は組合に目を向けない

・今回の出来事は、かつての国労新潟闘争の時と同じようだ
・OBとしては、直接現役にとやかく言う事ではない
・組合の中の意見の違いは、円満におさめて欲しい

・脱退した人が戻ってこれる基盤をしっかりと作っておく事が大切だ

・相談する人も少なくOBが集まる場所がなくなるか心配だ
・各地本で悩んでいる意見なども含めていろいろ出されました。

また会社から出された労使正常化に向けた「6項目」については、その内容に「大変心配だ」という声もありました。

最後に、東労組OB会は如何なる事態に対しても動じることなく、全12地本OB会がまとまって団結を強化して行く事を確認しました。

なお、本部OB会の定期総会は、中央本部の臨時大会もあり、5月に延期する事を決定しました。

わが町の 有名人

春日流の小唄
・端唄・俗曲の「名取」の西澤
長野地本OB会
繁和さんを紹介
します。

国鉄改革当時は、長野総合車両センターのJR東労組立ち上げリーダーの一人として頑張った西澤さんは、長野支部OB会役員として現在も元気に活動しています。元々古典芸能に魅力を感じていた西澤さんが行きついたのが、東京の芸者さん出身の「花柳千代菊

古典芸能に魅せられ

御開帳の屋台のお囃子を担当したことだそう。

そして、今一番楽しくやっているのが、週一回のカラオケ教室です。10人程の仲間は、社交ダンスの教



師匠」でした。小唄・端唄・俗曲で名取となり、三味線・大鼓(オカワ)の稽古も続けていました。が、父親の死を境に稽古をやめました。思い出に残るのは、善光寺

室を持つ指導者ばかりだとか。カラオケはリズム感の育成はもとより、健康管理にも大いに役立っているとの事です。また、川柳も趣味で、「我らの声」にも積極的に投稿しています。

(長野市在住・西澤繁和・69歳)

今年も日本退職者連合が 低所得高齢単身女性問題で学習会

日本退職者連合は、3月2日13時より連合会館3階会議室で、今年で第7回目となる「低所得高齢単身女性問題」の学習会を開催しました。

会場には年々女性の参加者も増え、134名が集まりました。JR総連OB連絡会からは、東労組と貨物労組のOB会から6名が参加し、その内の一人は貨物労組OB会の女性会員でした。まず学習会の冒頭で、主催者の日本退職者連合「男女平等参画推進委員会」の竹田邦明委員長と、来賓の井上久美連合男女雇用平等局長のあいさつを受けました。

米沢地区OB会が 今年も「復興式典」に参加

仙台地本米沢地区OB会は、3月11日伝国の杜置賜文化ホールで、2014年から東日本大震災復興祈念事業実行委員会主催の「復興のつどい追悼式」に参加しました。追悼式には、米沢地区OB会から6名の会員が、受付や案内などにボランティアで参加しました。

今回は真の復興！心の復興と共に「あの日を決して忘れない」をコンセプトに、政府主催の式典のブリックピューイングで行い、ゲストの大島花子さん(父・坂本九)のコンサートや、大抽選会・献花・特産物販売もありました。当日は400名の参加でした。

これからも私達は福島被災地を訪れ、地元の方と交流しながら大震災を風化させない取り組みをしていきます。

「低所得高齢単身女性問題に関する政策・制度要求」の取り組みについて、パワーポイントを使って約90分間に亘って詳しくお話がされました。

特にお話の中で竹信三恵子さんは、これからは平均寿命が益々延びる時代に入っていくので、働く高齢女性が

増えるので「高齢女性の労働運動が必要だ」と強く訴えました。

学習会終了後は、同じ会場で地方退職者連合から参加した人達を中心にして「交流会」が開催されました。東労組OB会と貨物労組OB会から参加した6名は、駅前で「交流会」を開き、参加した貨物の女性会員からは「初めて参加したが、大変良かった。来年は、東の女性も参加させて」と要請されました。

=お知らせ=
本部OB会の
第22回定期総会
5月17日12時より
本部大会議室
に変更となりました

「我らの声」(第19号)
現在販売中です
*購読希望者は
各地本OB会へ
*頒価は 500円